

報告者

森 新之介（思想史）

「今日の日本中世思想史研究」

大塚 紀弘（日本史）

「思想史研究とコスモロジー論」

野上 潤一（国文学）

「中世後期学問史研究の可能性
—思想史研究と文学研究のあいだ—」

論評者

船田 淳一（思想史）

司会

鈴木 英之（思想史）

- ・ 事前申し込み不要
- ・ 参加費無料（除く懇親会）
- ・ 平服でのお越しを歓迎いたします

主催 早稲田大学高等研究所
WIAS Top Runners' Lecture Collection

明日はあるか 日本中世思想史研究に



日時 2018年10月27日(土) 13:30開会 - 18:00閉会

場所 早稲田大学 早稲田キャンパス（東京都新宿区）
9号館5階 第1会議室（80人収容可）

懇親会 高田牧舎（会場すぐそば、定員40人）

◀ <http://20181027.jp> に詳細情報あり

開催趣旨

日本中世の思想は、宗教・政治・芸能など多岐に渡る。そのどれもが重要な意義を有しているが、近年の思想史学界における中世研究は低調で、研究者人口も減少し続けている。こうした状況を招いた理由はいくつか考えられるが、新たな研究者の参入を促すための中世思想の魅力発信が不足していること、他時代の研究者との連携に乏しいこと、仮託文献などの名も無い思想家たちの書籍に対する学界における関心の低さなどが、大きな理由として挙げられよう。

こうした中世思想史をめぐる思想史学界の危機的な状況に対して、昨今、中世思想に強い関心を抱き、新たな地平を切り開いてきたのは、文学や史学を専門とする研究者たちであった。これまで等閑視されてきたテキストや言説に注目し、一次資料を調査・発掘することで、新たな視点や解釈を見出していったのである。

そこで本シンポジウムでは、日本中世思想史における現状と課題を考えるため、思想史に加えて日本史と国文学から気鋭の中堅・若手研究者を壇上に招き、各々の最新研究を紹介して頂いた上で中世思想史研究に対する問題提起を行って頂く。それを踏まえた全体討論では、聴衆も交えて中世思想史研究の可能性について忌憚なく議論したい。

進行表

| | |
|---------------|------------------------|
| 13:00 - | 開場 |
| 13:30 - 13:45 | 開会の辞と全体説明（森） |
| 13:45 - 14:00 | 趣旨説明と登壇者紹介（鈴木） |
| 14:00 - 14:30 | 報告1（森「今日の日本中世思想史研究」） |
| 14:30 - 15:00 | 報告2（大塚「思想史研究とコスモロジー論」） |
| 15:00 - 15:15 | コーヒースタイル |
| 15:15 - 15:45 | 報告3（野上「中世後期学問史研究の可能性」） |
| 15:45 - 16:05 | 論評（船田） |
| 16:05 - 16:20 | コーヒースタイル |
| 16:20 - 17:50 | 全体討論（鈴木司会） |
| 17:50 - 18:00 | 総括と閉会の辞（鈴木） |